

| | | | |
|----|-----|------|------|
| 会長 | 副会長 | 事務局長 | 事務局員 |
| | | | |

平成23年度第1回平川市地域公共交通協議会幹事会会議録

| | |
|----------------|---|
| 開催日時 | 平成23年10月24日（水） 午後1時30分～午後3時50分 |
| 開催場所 | 平川市役所本庁舎3階 応接室 |
| 案件 | 1) 平成23年度経過について 2) 杉館・松崎線、岩館・大坊線の協議について 3) 金屋・日沼線の協議について 4) 新屋尾崎直行便の協議について |
| 出席者 | <p>【出席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤順一副幹事長 ・須々田勝久幹事 ・木村雅彦幹事 ・藤田潔幹事 ・大黒正勝幹事 ・山下祐介幹事 ・佐藤成子幹事 ・小野敬子幹事 <p>出席者8名</p> <p>【欠席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊池武弘幹事長 ・下山敏則幹事 <p>欠席者2名</p> <p>【事務局】</p> <p>事務局：長谷川尚道、山田一敏、小林豊</p> |
| 長谷川補佐 | <p>ただいまより23年度第1回平川市地域公共交通協議会幹事会を開催いたします。本日は菊池幹事長と弘南鉄道の下山常務が欠席となっております。幹事長が欠席ですので佐藤副幹事長に議長代行で進行していただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | <p>どうも皆さん、公私ともにご多忙のところ今日は出席していただきまして本当にありがとうございました。</p> <p>今日の案件は、まず1番目は平成23年度の経過報告、さらに2番目として杉館・松崎線と岩館・大坊線の実証運行について、さらにまた3番目として11月30日に実証運行が終了する金屋線、日沼線の運行について、4つ目には平成21年度・22年度に実証運行いたしました新屋・尾崎直行便の運行についてという案件となっております。本日の協議の結果はご案内の今月31日に開催するところの協議会の議案とさせていただきますと思っております。よろしく、慎重な御協議をお願いしたいと思います。</p> |
| 長谷川補佐 | <p>はい、ありがとうございました。それでは早速議事の進行に入らせていただきたいと思いますが、議事の進行は佐藤副幹事長にお願いします。</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | <p>それでは案件の1、23年度の経過について、事務局より説明をお願いしたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>(資料に基づき説明)</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | <p>ただいま事務局から経過報告について説明がありましたけれども、この件についてご質問ありましたらお願いしたいと思います。</p> |

| | |
|----------------|--|
| 大黒幹事 | 平成 23 年 4 月 1 日の国補助金及び市補助金の交付決定額はいくらですか。それから住民懇談会の結果の概要を説明願います。 |
| 事務局 | 国の補助金の交付決定額ですけれども 2,723,346 円になります。それから、市の補助金の交付決定額については 4,700,000 円となっております。懇談会の結果については、後ほど住民懇談会報告書によりご説明いたします。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | そのほか経過報告についてご質問ありませんでしょうか。 |
| 幹事 | (なし) |
| 議長 (佐藤副幹事長) | 無いようでしたら、それでは案件の 2 杉館・松崎線、岩館・大坊線の協議について事務局のほうからご説明お願いします。 |
| 事務局 | (資料に基づき説明) |
| 議長 (佐藤副幹事長) | まず 2 つに分けましょう。杉館・松崎線と岩館・大坊線の現在運行している市の実態が 1 つ、それから仮に現在の運行から実証運行した場合の説明が後半の説明です。まずは 2 つに分けて、実際の運行した市の 1 人当たりのもの、それから両方の現地の座談会を今説明していただきましたけど、これについて御質問・御質疑ありましたらお願いしたいと思います。現行の運行でなにか質問はありませんでしょうか。 |
| 大黒幹事 | 6 ページの、利用者からからんころん温泉と杉館バス停の間にバス停を増やしてほしい。これの実現出来る可能性がありますか。 |
| 事務局 | それは弘南バスと協議して実際に増やして良い場所か、安全面とかあると思うんですけども、その辺を協議して OK となれば増やす方向で検討する事が出来ると思います。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | はい、よろしいですか。杉館・松崎線と岩館・大坊線ですけれども、現在運行している実態について委員から質問ありましたけども、だいたい資料または説明について大方ご理解いただけているでしょうか。 |
| 大黒幹事 | はい、6 ページの岩館線の住民のところがありますけれどもカッコして岩館女性 1、四ツ谷女性 2、大坊女性 1 の次の利用者 EF 大坊女性 2 とでてきておりますけど、大坊女性は 2 人ですか 1 人ですか。 |
| 事務局 | これは 2 人になります。 |
| 大黒幹事 | 年代は。 |
| 事務局 | ちょっとそこまでは確認はしておりません。 |
| 大黒幹事 | おばあさん。普通のひと。 |
| 事務局 | 高齢者の方です。 |
| 大黒幹事 | わかりました。 |

| | |
|------------------------|--|
| <p>議長 (佐藤副幹事長)</p> | <p>個人的な停留所が欲しいとかの意見もありますけど、出席したその発言は発言として我々も重く受け止めなければなりませんけれど、そういうご意見があったということで。それでは次にですね、現行の運行については質問がなければ実証運行については最後に説明したとおりですが、まず、実証運行の実施、否かも含めて活発なご意見をお願いいたしたいと思います。31日の日にこれが議案としてみなさんのご意見が骨子となっておりますので宜しくお願いします。</p> |
| <p>大黒幹事</p> | <p>この14ページの赤字で書いてある、概ね25%以上というのはなにを指してどういう風に理解すれば良いのか。ちょっと説明してください。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>収支率という事ですけども、金屋線・日沼線の実証運行は11月30日までで終わるんですけども、その路線も収支率おおむね25%という事で設定しています。それからこれまで実証運行を実施した新屋・尾崎線も増便しましたけども、こちらの時も収支率おおむね25%という事でやっております。</p> <p>収支率はどういう事かと言いますと、弘南バスの運行する経費に対する運賃収入の割合となります。収支率25%という数字ですけども、それは平川市の循環バスの収支率が25%ぐらいということで、この程度は目標にしましょうという事で設定したものであります。</p> |
| <p>議長 (佐藤副幹事長)</p> | <p>そういうような25%がございます。</p> <p>はい、その他ございませんでしょうか。バスの実施方法、それからそれぞれの目標、それからダイヤについては実証運行の現行とほとんど変わらないということで。それでは、現在運行している杉館・松崎線、岩崎・大坊線の現行の運行から実証運行にするといいますか、こういうふうなことで幹事のみなさん。はいどうぞ。</p> |
| <p>山下幹事</p> | <p>ここにでてある実証運行案は住民懇談会を聞いて、特に利用者のおばあさん達が減らすんだったら土日切ってくれという事での実証運行ですけど、予算があるわけですから、あえて予算なしでも出来る実証運行やってよいのか、来年は実証する予算がとれないとすれば、今年やらないといけない事をやった方がよいのではないかという気がするんですけども。そういう意味ではコスト削減するならここを切ってくださいという話なので、まあやってもいいんですけど、これだけだったら前向きな感じにならない案で、かといって増やしたからといって乗るわけでもないだろうという話だと思うんですけど。何か別の事とか考えられないかなあという気がするんですけど。例えば日曜誰も乗らないのであれば、逆に無料のバスにしてしまおうとか、そこの部分は日曜日は誰が乗ろうと全部補助金で出します、それでも乗らなければ日曜日は切ってもいいという事かもしれないし。もう少し前向きな形での運行案という方が、実証運行という事に則してと思うんですけども。むやみに増やしてもしょうがないと言えましょうがないんですけど、いじり方として無料バスにしてしまえばまずいんですか。</p> |
| <p>議長 (佐藤副幹事長)</p> | <p>特に日曜だけ無料ですか。</p> |
| <p>山下幹事</p> | <p>日曜日だけ。走らせないというかたちではなくって、それでも乗らないという事もありうるし、逆に料金を取らないというのなら年寄りたちも乗ってみようかとか、</p> |

| | |
|----------------|--|
| | 中学生とか高校生も出かけてみようかなとかあるのか、そのへん周知していかないと意味がないんですけども。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | 何か幹事のなかでなんかアイデアありませんか。 |
| 山下幹事 | 要するに日曜日を減らして、浮いたお金を便数どこかに割り当てて、かつそれを場合によっては料金の発生しないかたちでもやることはあり得るであろうという事ですね。だから、無闇に減らすことだけを考える必要は予算的にないんですよ。切迫していて早くやらないとこのバスなくなるというという、切迫した状況であれば、切るのなら日曜日を切ってくれという話だったんですけど、そうでないのであれば、じゃ日曜日切るけどもそのかわりどこかでなにかしてみましようっていうなら切る意味もあるし、日曜って乗らないですか。走ってもしょうがないですか。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | いや、その出席した方によって病院に行く必要ないでしょうけど、逆にまた遊びに行くという場合であれば土日継続した方がいいのかな。座談会のこういう結果がありますので。 |
| 須々田幹事 | 対象は曜日が関係ない人たち。曜日とか季節とかあまり関係のないことを前提にして考えればやっぱり病院に行くのに病院休みというのが根本にあるのでしょうか。 |
| 山下幹事 | 日曜日いらないものを例えば月曜日午後にするとか。 |
| 須々田幹事 | 月曜日は病院基本的に混むんですよ、どこの病院も休み明けなので。 |
| 山下幹事 | 減らしてもいいというので減らすだけだったら簡単だし、あんまりそれをやってくるとどんどん減っていきただけなんでやっぱり避けたいんですよ。でも、そこを減らしていいというのであれば、別のところを増やしていくのが今の実証運行の趣旨だと思っているんです。月曜日混むのなら、月曜日増やそうという考え方。 |
| 須々田幹事 | 土曜日日曜日買い物予定して家を出るとかそういう動きは確かにあると思うんですよ。 |
| 事務局 | 特殊事情がある方に対するタダというのは分かるのですが、なんでもかんでも日曜日タダというのは行政のやり方としては。 |
| 山下幹事 | 実証運行ということでどうせ空っぽのバスを走らせるなら、それでも乗らないって事を経験しましたがけども。それでも乗らないのならいいだろうという判断をするための材料になると思うんですけど、月曜日混むのなら月曜日に増やすというやり方もありだと思います。 |
| 事務局 | それは、やり方としてはいい。 |
| 須々田幹事 | 週の前半が極端に利用が多いっていうわけではないですよ。 |
| 山下幹事 | 曜日によって、日曜日に減らすだけでなく曜日によってメリハリ付けるということであれば前向きなかたちの話しだと思います。 |
| 事務局 | 本当はですね、懇談会に出て実証運行はこういうものですよという話をしました。例えば日曜日減らすとしたら平日4便にしてあげるとかということ、岸野さんと |

| | |
|----------------|---|
| | <p>こちらから話をしたんですけども、現状の3便あれば十分とそういう意見でした。</p> <p>4便にして欲しいという意見がどんどん出てくれば4便で実証運行案も提示できたんですけども住民懇談会の結果が住民は3便で十分という発言がほとんどでしたので3便と決定しております。</p> |
| 小野幹事 | 無くしてもらいたくないということで必死だよな。 |
| 事務局 | なくならないといいというそういう意見ですね。便数を増やすとかというのは全然考えてないというみたいでした。 |
| 須々田幹事 | 生活の中でバスにあわせて使えるという人たちがほとんどなので、多分あれば時間に合わせて利用しますよという事だと思うんですよ。 |
| 山下幹事 | <p>結局は利用者の量は決まってるわけだから、これをいじったからと言って増えはしない。これがずっと残るかどうかは実証運行と違うレベルの話になって、乗るとすれば前から言っているとおり高校生とか他の年齢層が乗らないと意味がない。そういう意味では地域のなかで、月曜日でも金曜日の夜でもつくってその日はバスという事にすればよいのだけでもなかなかそれもね、日曜日減らすのであればそんなに痛まないわけだから、それをどこか協議会の側でこれこれやってみたらということ事は出来るわけですよ。ましてはアレでしょ。場合によっては全体の予算の中で今のプラスするのも可能でしょうか。</p> <p>それはやっぱり、ここの杉館・松崎線や岩崎・大坊線でやるのであれば周知してもらおうとかたちでやらないと、やってもあまり効果がないと思うんですよ。住民の方に周知してもらって、駄目であったら止めればいい訳で、行き詰ってきたら日曜日切ればいいって話になってきているから、そこまで用意されているので。それでちょっと午前中に事務局とちょっと話をしたときにですね、3ページの資料ですけども、杉館・松崎線が平成22年で1人当たり利用者が1,063円かかっている、それから岩館・大坊線は600円かかっているとこの事で、新屋や広船の方に比べるとかなり割高ですごくかかっているなあとと思うんですけど、人口で割ってみると、地区としてどれくらいの1人当たり補助金をばら撒いているかという事で言うと、やっぱり杉館・松崎は若い人が多いのでね、その8,000人居るので、だいたいみんな人口で割ってみると同じくらいの数になるか、新屋・尾崎は奥の方に行けば高齢者の多いから、利用者も多いけども、杉館・大坊線・岩崎・大坊は、高齢者が少ないということをやれば、1人当たりのコストだけで考えるのか、地域当たりのコストで考えるかと、結局補助金みると、大体同じような額ですよ。だから、1人当たりなのか地区当たりなのかという事で考えるか、杉館・松崎の人がそんなに今悪いことしてる訳じゃなくてみんな平等にお互いにそれぞれ年寄りを守ってるって言えると思うんですけど、だからそういう意味では多少乗ってなくっても贅沢にしてもいいという考え方も地区割りではいけばあるのかなあと思って。</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | 杉館・松崎線はやっぱりあれなんでしょう、館田の駅の利用も結構というかあると思うんですけどどうですか。館田から弘前に行ったり平賀に来たりして、1人当たりの単価は高いけども、館田だって人口は多いわけだから。 |

| | |
|----------------|--|
| 山下幹事 | 走っている量にしてはちょっと。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | <p>ちょっと整理しましょう。まず、内容もあれですけども、結論としては、実証運行を現状からするというをまずみなさんいいですか、31日に承認してくれますでしょうか。または、実証運行はもうしなくてもいいんじゃないかというような、必要なしというような意見がございましたら、この実証運行を31日に話題にしないことになってきます。運行の内容はただ今山下先生がご指摘したように前向きな事を考えて実証運行をするんだというふうな事でご理解して頂けましたでしょうか。</p> <p>はい、時間もだいぶ経過しておりますので、2番目の杉館・松崎線、岩館・大坊線は実証運行をするということで承認いたしました。3番に入っていきます。3番について事務局から説明があります。</p> |
| 事務局 | (資料に基づき説明) |
| 議長 (佐藤副幹事長) | はい、ありがとうございます。3番の実証運行が11月30日で金屋線・日沼線についての実態と懇談会の報告会が話されました。この実態をふまえて11月30日以降のですね、運行についてご審議をお願いしたいと思います。まず実態についてのご質問ありますでしょうか。 |
| 山下幹事 | それぞれ、金屋・日沼から平賀にくる方が多いんですかね。そうすると平賀にどういう用事で来てるのか、その辺の実態調査はどういうかたちですか。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | 尾上のバスの利用者の内容を把握していますか。 |
| 事務局 | 金屋線と日沼線のアンケートを実施いたしました。それぞれ3日ずつ全部の便に乗ってアンケートをしましたが、金屋線3日間で総利用者が25名いましてそのうち12名の方にアンケートを実施しました。目的ですけども、複数回答もありましたが買い物は10名、病院が3名、温泉とゲートボールが1名ずつ、ということで主な目的は買い物、次に多いのが病院というような結果になっています。日沼線の方ですけど、日沼線も同じく3日間で4便全部に乗りまして、総利用者数が16名あり、アンケート調査を10名とりました。利用目的は買い物が7名、通勤が1名、J・A・お寺詣りが各1名ということで、主な利用は買い物という結果になっています。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | 平川市内の買い物ということですね。 |
| 木村幹事 | 日沼から来てもここにくるのではなくて途中の「さとちょう」で降りて、「マックスバリウ」までくれば平賀にきますが、途中で降りちゃうという人が多くいるという事ですね。20ページの表を見ていただくと分かるようだけれども、金屋、日沼発に比べ帰りの便は半分ですよ。ですからここまで来ている人の数がだいぶ少なくなっている。同じ尾上の中で降りて買い物して帰っている人があるってことですよ。 |
| 山下幹事 | こっちまで来てないということですか。 |

| | |
|----------------|--|
| 木村幹事 | この下の表を金屋・日沼発の9時と平賀駅発11時があるんですけども、上は平賀に向かってくる人の乗車人数で、下が平賀から日沼、金屋に向っているとすれば半分ですよ。朝乗って来るのと比べて。 |
| 事務局 | あと、懇談会でもでたのですが、金屋から、金屋線に乗って、「さとちょう」まで来て尾上黒石線に乗って帰るとか、そういう買い物の仕方をしてる人が結構いるということでした。逆に黒石に行っちゃう人もいますし。 |
| 小野幹事 | もともと生活圏は黒石だもんね。 |
| 事務局 | 日沼は弘前となっておりますし。 |
| 木村幹事 | 医者に来る考え方もないし。 |
| 山下幹事 | この集計は、金屋・日沼から乗った人数、平賀駅で乗ってる乗車数。 これを見たとき金屋・日沼発は1便はすごく乗って、帰りの平賀発が半分しか午前中に帰ってこない。で、午後の2時50分に残りの半分が帰ってくるとみたんですけども。そうじゃないんですか。 |
| 木村幹事 | それもありますよね。ただ、12時にむこうからたって来て4時帰っているのは、ほぼ同数ですよ。この辺の説明が、どうなるのかという話になりうるんですけども。 |
| 山下幹事 | つまり行き帰り4本を全部合計して割れば25%切るのは当たり前なんですけども、どの組み合わせを残せばいいってことで、金屋線は思ったより乗っているのもっと乗らないと思っていたので。 |
| 木村幹事 | 本当にそう思いますよね。金屋線は、あそこにまたバス路線が1本あるわけですのでその割には乗車しているんですね。 |
| 山下幹事 | それと日沼線の方はどうも懇談会なんかのほうをみると熱心は熱心ですよ。 |
| 事務局 | 日沼線は乗っていない割には、発言が「残して欲しい」と。金屋線は乗っているんですけども、あまり関心がないとそういう感触でした。 |
| 大黒幹事 | 22ページの金屋の町会長がしゃべっている、病院の無料バス乗る人の、病院ってどこの病院ですか。 |
| 事務局 | 個人病院ですね。 |
| 大黒幹事 | 個人病院なら病院でないべ。医院だべ。 |
| 事務局 | 医院ですね。 |
| 大黒幹事 | 総じて病院ってするけども、ちゃんと表記しないとだめですよ。病院と医院は違うので。黒石病院に行くのかと思った。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | 色々個人こういうふうな信用している病院のバスに無料で乗れるわけですので。残して欲しいという事は、まあどこの人でもこれは当然でしょうけども。それから、農繁期がすぎて冬期にはいるでしょうから、そうすると、11月の30日に実 |

| | |
|----------------|--|
| | 証運行終了するという金屋線・日沼線は引き続き運行をするというような、してほしいというようなそういった感想が多いようですけども、それでよろしいでしょうか。 |
| 山下幹事 | <p>今年はいいいんですけど、来年になれば特に日沼線に関しては、どうせ切るっていう議論をしなきゃならないんなら、その間に残すのであれば何かをしたりすることを考えておかないと、ただ来年に引き延ばしただけで終わってしまうので、特に金屋線に関してはスカスカで終わると思っていたのがちゃんと乗ってるという事は需要があるのかなと思ったんですけども。残せるとするとどうするかってことを、考えないといけないのかなと思うんですけど。4本全部残すのではなく、午前だけにするって手もなくはないと思うんですよ。そういう需要あるのかどうかなんですけども。</p> <p>あと、農繁期だけ切って冬だけやるって手もあるし。そのあたりがなんか分かるように来年実証しておかないと、農繁期も動いてるから農閑期もこれくらい乗るんだというのであれば全部一体に考えないといけないと思うですよ。</p> |
| 小野幹事 | それは一体で考えないと駄目だね。 |
| 山下幹事 | そうすると、どうしても採算が合わなくなる。 |
| 大黒幹事 | 冬期になれば全然違うからな。利用する人にとっては、バスの時間や運行コースがある程度定着して乗りやすくなったなあと思った時に変わった、しょっちゅう変わるようであれば利用する人は大変だ。今度どうなったとか、またどうなったとかとなれば大変だ。時間が何時なら何時、何時なら何時というのが定着していれば利用しやすいし、そこの兼ね合いも考えていかないと。利用が少なくなって行くのではないかなと。これから冬期間に入っていくし、利用者は横ばいかあるいは増えていく。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | ただいまのご指摘の通り時刻表をある程度定着させるという、それから冬季に入ると利用が増えるし、また高校生の部活の関係で、比較的部活に間に合うような時間あれば案外いいのかなという感じでした。はいそれでは実証運行から平常運行に継続するというような事で協会に提案してよろしいでしょうか。 |
| 事務局 | 今の金屋線・日沼線は実証運行から本格運行へ移行するという話ですが、事務局としては、あくまでも実証運行を開始したときの目標が収支率 25%という事で実証運行しているわけですので、目標達成度という事でいきますと金屋線は約半分の達成度、日沼線は約4分の1の達成度となっており、達成度からすると目標に全然足りてないという事ですので、それを本格運行に移行するという事になると目標と全然かけはなれた数値のものを本格運行になりますので、それはちょっとどうかなあという疑問はあります。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | もう1回そここのところを確認したいと思います。只今の金屋線・日沼線ですね運行について、協議会にどういうふうなかたちでもっていくか、もう1度事務局の説明を聞いてどですか。 |

| | |
|----------------|--|
| 小野幹事 | 協議会の多数決で決めるのか。ここで方向性を決めるのか。 |
| 事務局 | はいここで議案を決めることになります。この結果イコールで協議会に行く事になります。 |
| 山下幹事 | 仮にここに本格運行するのか止めるのかというのを今決めなきゃ駄目なんですか。 |
| 事務局 | 実証運行というのは原則1年間なんです。それを延ばすとすればルートを変えないといけません。金屋線・日沼線については1年間実施しました。2ヶ月間は延長しましたが、1年2ヶ月で結論を出さないといけないという事になりますので、ここで廃止にするか本格運行に移行するかの2択という事になります。 |
| 小野幹事 | 廃止にしてもいいんじゃないかな。 |
| 木村幹事 | ちょっと収支率が。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | 実績をご覧になって実証運行を今までやって、この機会に何かありますか。 |
| 須々田幹事 | この路線を最初話した流れは、尾上地区から平賀のほうに人が流れるって動きが期待されるっていうのが確かあったと思う。この部分でさっきも出た中で言えば、このうちの10%・15%は多分微々たる中であるんだと思うんですけども、そのままいけば、もう代替のバス路線がそれぞれあるという部分もあるので。あと数字を見れば、やっぱりもう無理かなって。百歩譲っても地域住民には理解していただいて、もうこれで終わりって感じでいいのかなと思います。なんもなければ代替もなければ継続という形でいってもいいと思うんですけども。代替があるという部分で、そろそろ1年2か月でいいのかなって感じがします。 |
| 事務局 | 今言われたとおり、弘前黒石線もありますし、弘前尾上線もありますし、黒石尾上線もあって、路線バスも使えるっていうのは確かにありあますので、全く使えなくなるということにはなりません。 |
| 須々田幹事 | 生活圏が、合併して5年たっても、黒石、弘前で買いますよね。私も尾上の方も管轄なので、話をしても向いているのは平賀でなくて黒石、弘前に向いているというところはまだまだ感じる事でもあるし、以上です。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | どうでしょうか。日沼線は弘前の方に流れるし弘前線も走っている、さらにはまた金屋線は黒石に流れるバスがある。両方ともまた、行きつけの病院のバスも走っているという事で実績は思ったより数字があがらないという事からこの線については、そうすると、31日の協議会には廃止という事でここで決めたという事でよろしいですか。 |
| 幹事 | はい。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | では、そのところは実証運行で廃止ということに、そのところひとつ説明をしてもらいたいと思います。それでは、次に進めていきます。 |

| | |
|----------------|---|
| 事務局 | <p>それでは、新屋・尾崎直行便の協議という事ですけども、資料は23ページになります。(資料に基づき説明)</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | <p>ただいま事務局のほうから実証運行をしておそらく、まあ私も興味あって、私の出身地の町会長からっていう事なんですけど、1年目は死に物狂いでバスがなくなるという事で呼びかけたらぐっと増えたけども、それが2年目3年目になってくると、毎年またそういう活動をするわけにもいかないし、自然の成行きに町会長としても従わざるを得ないので、非常に難しいという話をしていました。その実態が今、事務局の方でも、どの地域でもおそらく町会長が板ばさみになりながら、バスの継続を一生懸命活躍しているわけですけども。どうですか、新屋・尾崎線の、これについてみなさんのご意見で継続するか否か。</p> |
| 山下幹事 | <p>21年が始まったばかりの年だったので、手探りでやったんですけど、今平成21年度の時の事を振り返ってもすごく強く反省してるんですけど、この目標がやっぱり全体の現状からすると厳しすぎたんですよ。今振り返ってみて、今日、この廃止だという事になった金屋線の目標収支率が25%で、1年で25%超えてるんですよ、これで十分もう実はこちらの収支率が十分成り立ってるんですよ、だからちゃんと成功だという事にしてあげればいけなかったなあというのが今の強い反省なんです。これでも成功してないという事になったので疲れちゃったなあというところで反省していて、なのでちょっとここらへんをうまく議長のほうからですね、1年は今考えてみるとどれもうまくいってないんですよ。その中でこれが廃止となれば協議会をやった意味がなくなってしまう事になりますので、やっぱりこれは残していかなければいけないというのが1つ目だと思うんです。姿勢としては。ただ2年目ちょっと少なくなってるんですけども、幸いこのアンケートの結果で来年朝と昼と、朝だけの需要で乗るといってるので、全く乗らないとあればちょっとつらいかなって思うんですけども、一応アンケートを採っても乗らないっていう結果が出てくる可能性もあるんですけども、それでもなお、こういうかたちで乗ると〇をつけてくれるという事を、去年の事をふまえてで、やる以上、やる根拠であそこに残ってるという事ですね。だから3年目やるってことをここで決めてもおかしくはないという事ですね。3番目ですけども、そうするとその時に、私として成功した事で残して行きたい。そうでないと、本当に今後、ここであんまりうまくいった事がないので、せいぜい料金を100円を200円にして、なんとか収支率だしたけど、結局、利用者がどんどん減ってるんで、それが実体で、それでもなお今日の話じゃないけれど、土日減らされても残してくれてるのが切実な話で、でもこのままやってもどんどん税金になるんで、芽を残しておくのはこの方法しかない。それで、ちょっと提案なんですけども、3年目もう1回やるけれども、基本的には3年目はそれ以降の実証を超えて平常運行に切り替えていくための最後の流れ、基本的には平常でやるつもりで進めてくださいというふうなかたちのほうが、ぼくはいいと思うんです。1年目成功したんだから、2年目3年目少子化が進んでるのでどんどん減ってくるのは分かりきってるので、そういう意味では、これ以上伸びないかもしれないけども。この子供たちの足は新屋に関してはちゃんと守って行きましょうと。その時に、去年の論理では交通、足を守るという話じゃなくて、やっぱり高校生の足を</p> |

| | |
|----------------|--|
| | <p>守るというよりは少子化対策意味合いをもたせましょうと、少ししてたと思うんですけども、そこらへんも3年目もいれていながら平常運行のところにもそういう論理を入れてくべきだと思います。ただしどこでもこれでやれるわけではなくて、できれば来年、通学バス協議会みたいなものを2つの町会の中でちょっと作ってほしい。全部町会長がやるのは大変なんで、例えば新屋3人尾崎3人ぐらい決めてもらって、それで高校生の親たちにアンケートをとるとか、あるいは高校生の親たちを集めて毎年1回運行の形態の会議を必ず持つようにする、そういう約束してもらって話をして、乗る人があまりに少なくなればアレですけども、その乗ってる数をみながらその委員で話し合う仕組みをつくるというところを前提として、それをつくるのであれば、ここにちゃんと入れてやっていきたいと思います。そういうふうな平常化というか、かたちをここでとれないかなと思うんですよ。で、これで多分広船唐竹だけなんで、そこに次に加勢するなり、本当は来年やりたいと言ってくれると嬉しいですけども。そこで手を挙げなければ、新屋だけはちゃんと子供たちを守るってかたちでのちゃんと実をとったというようなかたちの方が、今回協議会でずっとね町会長さんたちを集めて手挙げたりなんなり、説明会で手挙げてもらって、プロセスずっと努力してやってきたと思う形で言うと、やっぱり努力をしたところをちゃんと路線を残した方が正しいのかなあと思うんですけど。</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | <p>山下先生がこのような、せっかく協議会で一生懸命協議をしてあれもダメこれもダメといいますか。他にないですか。アンケートの結果だと収支率25%いけませんか。</p> |
| 事務局 | <p>アンケートの結果どおりすべて乗れば、収支率50%くらいはいくんだろうと思います。</p> |
| 事務局 | <p>多分無理だと思います。半分どうかなのというのが実態だと思う。あとそれからですね、1ついいですか。あの先生さきほど、1回目の21年度の収支率25%超えの成功だろうというような話があったんですが私はそうは思っていないですよ。実際の数字は2年目の11.8%が妥当だろうというふうに理解しております。というのは、21年度の場合は、町会長がかなり強引に「めぐせごとしたくないから」という理由で乗せたんですよ。それでこれの数字になってるんですけども、2年目になにもしなかった、まったくしなかったわけでもないんですけども、この数字というのが本来の数字なんではないかなあというふうに理解しております。</p> |
| 山下幹事 | <p>僕は全然話が逆で理想の数字と理想の状態と普通の状態、多分これからどんどん人口減少してきて、しかも高齢化進むのに乗る人少なくなって、少子化がどんどん進むのに子供が少なくなるのに乗る人少なくなるから、基本放っておけば、交通はあと10年もつかどうかで、この収支率をみててもとりあえず、今回100円で何とかしてますけど、値段を上げればなんとか収支率が良くなる、たぶんこれは最後切り捨てで、200円とか300円では多分もう無理かと思うんですよ、現状からしてですよ。他の条件がもっと不利なところでは1,000円でも乗るんですけども、せいぜい250円300円までだけどそこまでいったらかなり減っていく、やっぱりだから結局頑張りどころで、理想を追求してそれでも駄目ならしかたがないということも</p> |

| | |
|----------------|---|
| | <p>あるんだけど、逆に言うと実証実験でいうと頑張る人が頑張ると乗るという事が証明されて、ただそれを、一部の人が強引にやるという事までやってもこの程度だという事でもあると思います。ただもう少し一部の人が強引にやるかたちでなく、もう少しこう、町会を母体として、ある種みんな合意出来る仕組みをつくりながら運営していくという事をする事によってこの先少しでもちゃんと利用者が増えていくって事を考えられるかたちで残して行った方がいいと思っていて、そのために平常運行としてこれをずっとやりますよってかたちでなく、そこに協議会を作ってもらってその協議会とやるってかたちでしばらくやりましょうというのが落としどころかなって思うんです。その時の、収支率に関しては100%は絶対無理だし、25%でも無理やりやってもギリギリなので、25%でおいていくと厳しいのかもしれないですけども、ほかのところが25%になれば25%を目標とするというかたちで実態十何%ぐらいに推移してくと思うんですけども、それでも少なくともアンケートをとったり町会の媒介にして地元の親や子供たちが何を考えてるか多分かなり分かったと思うんですけども。交通に関してはかなり実態が分かってきたと思うんで、そういったかたちの芽を残す為にもここはそういうかたちでそういう意味があった事業であったとして位置づけていけばいいんじゃないかと思います。</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | はいどうぞ。 |
| 大黒幹事 | <p>この新屋町会長の1番最後のバスを通して町会の若い人たちと一緒に取り込むことが出来た非常に良かった感謝している。こういう人たちをとりこんでみても3年目としてはコミュニティーの大きな成果だと思います。したがって、この存続していくのも3年目としてはもう少し高校生を取り巻いた何かをこう、先生も言ったように何かやってもよいんでないかと。例えば高校生との懇談会、協会を媒体としてやってもいいのでないか、高校生あるいは高校生の親を入れて、そういう事によってもう少しバス利用についての意識を高めていくという部分も必要ではないかと、こう思います。したがって、今回の実証運行については、3年目是非続けていってほしいと、こう思うわけです。</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | 今日は地元の小野さんが来てますので、地元の小野さん一言。 |
| 小野幹事 | <p>まず第1アンケートは当てにならない。それを今まで唐竹とかでやってきて14人の利用者当てにならないと思います。町会長も本当に一生懸命頑張ってきてくれて、大黒さんがしゃべったコミュニティーは、もともと新屋はコミュニティーがいいんですよ。ただこれだけ頑張って、せいぜい協議会の成果みたいなものが欲しいんでしょうけど、でもやっぱり世の中も変わってるんだし、ここまでやってもこれだけでだめなんだば、まあいいかなあって、私は町会長に感謝しながら別の方向もあるんじゃないかなあっていうのはあります。もうやることはやりつくしたようなという気がするんですけど。</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | <p>司会があればですけど、私は老人クラブの方の代表としてですけども、前に協議して両方からみた場合に、老人の方はまず動けなくなってくると施設の介護の</p> |

| | |
|-------|--|
| | あれをつかったりして、問題はやっぱり中学生高校生生徒を引っ張り出す、そういった程度教育委員会と連携をとって、そしてPTAなりそういう人たちと、実態を深刻にやってるのか。もう少し高校生を持つ親達が集会に集まっていい気がするんですけども。それはなかなかそこまでは町会長も無理してもあれなんだろうが。 |
| 小野幹事 | 最初は来ていたみたいよ。最初は来ていたみたいだけど、あの1つ前と変わってるのはバイパスが出来て、平賀に来るのに時間がかからないんですね。なのでそういう面は昔とは比較にならない。送り迎えにも時間はかからないし、そういう時代の変化もあると思います。 |
| 山下幹事 | そうだね、時代の変化の話をしてしまえば、もういらないんだけどね。公共交通は。 |
| 小野幹事 | でも高齢者にとっては必要ですよ。 |
| 山下幹事 | だから高齢者で福祉にしまって公共交通はなしにしまってかまわなくて、福祉だけであれば。 あとは乗る人がどんどん減ってくるので、デマンドにしまって、その人たちがいなくなったらそれでおしまいってなるんですよ。 |
| 小野幹事 | でも高齢者は増えていくじゃないですか。 |
| 山下幹事 | でも乗らないんですよ。 |
| 須々田幹事 | 基本的に困ってないですよ。困れば乗るんですよ。碓ヶ関の方で今、町会で誰かが車をだして大鰐のマックスバリュまでまとめて乗せてもいいよとやったり、本当に困っている所はそうやって、社協のほうにも車1台いつでも自由に使える車用意してくれればボランティアで運転手やって10人くらい乗れるマイクロバス、10人未満のああいう車1台でもあれば、貸してくれれば町会ごとに高齢者に対しては、運転手かってでで買い物ツアーを半日行って帰ってというのをやってもいいよということで、やってもらっているところもあるし。私たちが車どうするかなど考えたりするんだけど。本当に困っている所は、町会でやってる町会も出てきているし、基本的に公共交通ってのは、これを抜きにして考えないといけない部分があるに尽きると思うんですけど。必要があれば使ってもらえるし、需要がないという話をすればこの協議会自体も全部なしにして止めればいいとなる部分もあると思うんですけど。 |
| 山下幹事 | なのでこの収支率というみたいな話が前面にでるとよくないですよ。目標として使われる分にはいいんですけども、これを越えなければ廃止みたいなのという話をして行けば、どんどん縮んでくから、駄目になってくだけなんですよ。でもこれくらいは残しましょうという範囲を今探してると思うんで、例えば高齢者の足ってことだけで言ってしまうと、これが中止になってしまう。あくまでも高校生の足って意味でも人口が少子化してるのでダメです。少子化がこれ以上進むと、あの地域社会としてなりたないくんってしまうんで、そのあたりをどういうふうに支えると |

| | |
|--------|---|
| | <p>いう論理と、普通の親が普通に送り迎えが出来るといいんですが、やっぱり、乗ってる子たちのアレをみていると子供たちのなかでも、やっぱり、公共交通があることでちゃんと自立して生活できるという子が何人かいて、増えてくると思うんですよこれから。その場合にその子たちだけに特別な形の事をするって難しいところで、福祉ってのは高校生にはないんで、年寄りであれば福祉というかたちで社協含めてサービスという形で死ぬまで面倒みれますけども。あと高校生に関して、基本的にどうしようもなければ弘前出ているんだと思うんですよね。基本的にはないと思うんです。片親であれば送れないという話は実はある。そういう意味では収支率25%が重要だというよりも、地域の中で子供たちが足を守る為に少し努力をする姿勢を見せるって事も大事なところかなと思うので、これがただ収支率みたいな話を全くしないで進めるわけもいかないので、多分今後何かするにしてもここを目標、あんまり減ったり、ゼロになってしまえば廃止にせざるをえないので。考え方を少し変えたかたちで今後評価していかないと先が見えない。これで評価できないとなると残らないのかなと。</p> |
| 事務局 | <p>この直行便が始まった時は、新屋の町会長から要望があって、新屋の町会で地域のバスを守りたいということで始まったと記憶をしてるんですけども、実際2年間やって今年町会長と話をしたら、地域の人たちでバスを残していくという取り組みをするのにも限界がきてると、町会の世帯にお願いするのも厳しい。町会長も町会みんなでやりたいと気持があれば実証運行に向けて突き進めるんですけども、町会長がもうやる気というか疲れて、もう、燃え尽きた感があるんですよ。なので、このまま実証運行にいつてしまうと町会長さんの立場として可哀そうな立場になるのかなって。そういう感じを受けましたのでこのまま実証運行をやってもいいのかなという気持ちはあります。</p> |
| 佐藤成子幹事 | <p>私としては先どうなるかわからないんだけど、直行便をやった時に、すごく盛り上がり東京の方の国土交通省の会合に行って10分間だけ発表させていただいたんですよ。その時に、本にも何ページかに載せていただいて平川市が有名になったってこともあるので、1年2年やって失敗したからと言って駄目だったといわれるかも分かんないけども「石の上にも3年」という言葉もありますので、なんとか新屋、尾崎の方に協力していただいて結果をみたいなという気持ちもあるんですけども。</p> |
| 事務局 | <p>たださ、町会長がやっぱり地元でよく話すんだけど、はっきり言って「もうやらない、もういいべ、あれで終わったべ」という話なんですよ。町会の中でもちょっと立場がまずい。</p> |
| 藤田幹事 | <p>極論ですけど残してほしいという私個人的な感想です。やっぱり、会社の中でもこういう路線バスは会社の利益につながらないものなので、それこそ先ほどから収支率うんぬんって話ありましたが、社内でも収支率だけで判断すれば、山下先生のように将来について考える人もいるので。あくまで私個人的な感想ですけど、この路線だけは残した方がいいんじゃないかなというふうに思います。</p> |
| 山下幹事 | <p>考えてることは同じ情報を持ってて、多分このまま新屋齋藤町会長さんにまたお</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>願いするってのは気の毒なんです。だから、それとそれから、これをまた来年も収支率に向けて頑張るといのはとてもじゃないけど出来ない。だから、そうじゃなくって、今日こういうかたちで出てきて、協議会の方でこういう論議でこの事業はやっぱり、新屋のことだけでなく、平川市としてちゃんと残していかないといけない事業だといのかたちで考えて、こういうかたちで進めてくれないかといのかたちの願いの仕方をしつつ最終的には齋藤町会長、町会長一人でやるってのは無理あるので協議会のような形でつくってもらえないかと、そこにある程度投げかけつつ収支率に関しては目標として掲げつつというふうなかたちの願いの仕方といのか、正しいのではないかとあという気がするんですけども。</p> |
| 小野幹事 | <p>新たな協議会は無理だよ。</p> |
| 事務局 | <p>そっちの方がますます拒絶反応を示す。組織作らせるとかさ。町会の役員ってすごく激務なんです。普段。ましてはみんなリング作ってますしね。その1年目の強制的な、気持ちよく自家用車で送り迎えしてもらおうのを無理やり引っ張ってきて乗せてという、「ま、しかたね。1年協力してけるがと。町会長の顔を立ててけるか」というスタンスで始まったんですよ。2年目3年目となればもう誰も話を聞かないし見むきもしないしって、町会長一人でやればいっきゃという雰囲気になってるんですよ、実は。それにさらに組織立ち上げてこっちからって言えば、いや、あの人は多分役所の方からお願いすれば嫌とは言わないでしょう。性格上。だけどね、そのあと町会の中の役員の立場を考えるとどうかなーとか言う気はします。で、あと本人には、循環バス残ってますのであまり気にしてないみたいです、止めるのに。止める話ばかりして申し訳ないんですけども。</p> |
| 山下幹事 | <p>ただ、あのーこれ数字すごく変ですよ、新屋の減り方は利用者の。激減してるんですよ、これ。新屋・尾崎線っていうのは。平成17年と平成22年、60%減っている。他より相当厳しい状況になりつつあるというのは間違いないと思うんですよ。数値を見てないんですけども少子高齢化っていうのもそうとう早く進んでいるっていうか、早く進んでいると思うので逆にそういう期間に来てたと思うんですよ。これもいろいろみてるのでアレなんですけども、激務だっていうのはだいたいみんなそうだと思うんですよ。どこでも特に真面目にやってる町会長ほど、それぞれの役割が多くてしんどいと思うんですけども、その中でちゃんと工夫しつつ一部の人に偏らないかたちで進めていくのは必要で、この間2年やった時に、それでも親の中にほんとに2、3人だけでも真面目にずっと来る人がいるんですよ。</p> <p>基本はそういう人が中心となればいいと思いますし、大きな組織でなくても構わないと思うので、そこを今までの町会のやりかたを違うかたちなんだけどもちゃんと役割をあたえつつ、例えばこの交通だけでなく色んなことに関わってくると、学校もそうだし防災もそうだし。多分高齢化進んで行けばそうだし、その中間の組織の動かし方っていうことについても、リーダー中心となつてのやりかただけでない、少しなんていかな自由なネットワークっていうのも考慮しつつ、進めていく転機はあると思うんです。ここでは出来るんじゃないかなあと思うんですけども、高校生とかがって3年にいっぺん変わってきますよね。年齢的になんていうか若手っ</p> |

| | |
|----------------|---|
| | ていうかたちになっていくので、その辺りの人たちの意識は非常に重要なので、なんていうかな、任命してやることって多分最初の集まりと最後の反省会ぐらいの2回ぐらいの集まりで実態は終わると思うので、それぐらいは出来るようなかたちになって欲しいなあというのが今回の新屋をみていた2年間の感想です。 |
| 議長 (佐藤福幹事長) | はい、ありがとうございました。時間もだいぶ経過しましたが、両方の案を協議会に出すわけにもいきませんので、今日平常運行にするか否か、そこを確認しながら31日の会議に持ってきてほしいと思います。無理だという事務局からありましたけれども、もう一度事務局の案をひとつ皆さんに幹事の皆さんにお知らせください。 |
| 事務局 | 実証運行はですね、地元の方々からの要望があって、地元の方々为本当に必要なだということで実証運行を実施するものだとして理解してるんですけども、懇談会を実施した結果、もう実証運行をやってほしいと必要だというのは感じられなかったんですね。ですので、この路線についてはこの2年間の実証運行の結果で廃止とするのが妥当なのかなと事務局の方では考えております。 |
| 大黒幹事 | この時集まったのは新屋と尾崎の町会長だけか。 |
| 事務局 | はい、そうです。 |
| 大黒幹事 | それにしても事務局が否定的であればものが進まないの。 |
| 山下幹事 | ひとつだけ。最初はお願ひしたんです。新屋の町会に事務局のほから、新屋のほうから特にやりたいからやらしてくれという経緯はないです。それは間違いないです。手をあげてくださいというかたちであれして、新屋が関心あるよって言ってくれて、きっかけになったマイバス会でやった会合に出てきてくれていたのこの問題があるんだってことで理解を示していたってところで、どちらかという交通協議会の方が先にあって、こちらの方で実証運行という機会ができて、これは是非了承して欲しいんだけど、全く意識のない所に言ってもやらされるだけなので、どこか少し意識のあるところを探したいということで手を挙げてくれたのが新屋町会長さんでそういう意味ではちょっとさきほど言ったのとはニュアンスが少し違うかなと気がします。 |
| 事務局 | 当初は必要だと、地元でこの便をつくって守っていききたいという高まりがあったんですけども、2年間やった結果もう高まりはもうない状況。先頭をきっていた町会長そのものがやる気がなくなってしまっているというか、という状況なので地元の方からもそういう直行便を残して欲しいという要望は、こちらにありませんので、要望のないものを実証運行という流れにはちょっと難しいかなと。 |
| 山下幹事 | ちょっとそれは誤解で、話は市役所の方からでてくるんです。地元の方で高まった事ではないんですよ。だからそう意味でも地元のこれに対する要望が高まったということがあったかという、僕の観察ではないと思います。どちらかっていうと市の方で交通をやらなきゃいけないということで事業をもってきて、それを是非一緒にやるところを探そうということで探して一緒にやりましょうって、じゃあやるかってやって1年目すごく一生懸命やったのが実態だと思います。それでやってみたん |

| | |
|----------------|--|
| | <p>だけでも、あまりうまくいったと評価してもらえなかった感じになって2年目しぼんで行ったという感じだと思うんで、そう意味では基本は何が問題としてあるかっていうと、地元で要望があってそれを市役所でうけてそれを解消しようって話ではなく、市の方で公共交通の問題が今回バスが15便から8便、8便から5便3便に減って、あれも5便3便になったけど最初に4便2便がいいかなって話をなんとか住民に呼びかけて5便3便みたいな論理をつくってきたんですけども、このままいけば、かなり公共交通も厳しくなるという状況の中から、住民と連携するような形での交通の残し方を模索したいっていうのは、市の方から出てきた話だと理解した方がいいと思う。だから、急に市の方で公共交通の話をしてきたのに住民のほうからもう要望がなくなったので止めますというのは話の筋が少し違うのかなって思います。市としては公共交通協会を立ち上げたところからと進めていって、この芽をどういうかたちで残していくかって議論するのが当然の筋だと思います。そういう立場で僕今話をしてるんですよ。どちらかというところから、1年目2年目は住民側の立場として色々議論していかなければいけないんだけど、3年目は市としてどのようにこれを評価していいものを残していかないといけないのかって議論していかなければいけないので、そうすると市の方がなにをするのかっていうことを問われるところだと思うんです。</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | <p>それぞれ行政の方と幹事の皆さんの方と、意見がそれぞれ平行線をたどっておりますけども。私は議長ですけども、あれは3月までは出来ないんですか。</p> |
| 事務局 | <p>今年もし仮にやるとした場合ですよ。もう2年間やって、原則としては1年間しか出来ない事なのに2年間やってるんですけども、ルートを変えるか、もう1年実験が必要だという理由をつけて国の方をお願いし、認められれば実証運行は出来るという事になります。</p> |
| 議長 (佐藤副幹事長) | <p>今までの話だとやっぱり継続して実証運行をもう少し続けて様子を見た方がいい、アンケートの乗車の希望は勘案して考えた方がどちらかという、多いようですので、31日の時に実証運行を継続するというような事で、決定をしたいと思っております。それでは、もう1度事務局の方からですね、前の2、3の確認をしながらひとつ終わりたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>杉館・松崎線、岩館・大坊線については、資料の9ページに書かれており、実証運行は12月1日から3月31日までとして、現在毎日運行しているのを週6日の運行として、便数・時間・ルートは現行のままという事で実証運行を開始したいと思います。それから金屋線・日沼線については、11月30日まで運行するんですけども12月1日からは廃止という事で決定したいと思います。</p> <p>新屋・尾崎線の直行便ですけども、ルートがちょっと疑問に思ってるんですけども、前回と同じ尾崎からでよいのか新屋だけにするのか、1つ確認したいと思います。</p> <p>22年度のデーターだけだと実証運行としてデーターが少ないという事で、もう1年間実証運行をやる必要があるということで国の方をお願いして、それが国の方で認められた場合に23年度も実験を同じルートで継続出来るという事になります。</p> |

| | |
|----------------|--|
| 事務局 | 新屋の実証運行で、町会が全く協力しないとなればどうしましょうか。 |
| 大黒幹事 | 協議会の意向に沿いたってかいているから。 |
| 事務局 | もし、実際言われるとどうしましょう。市で勝手にやってみたらといったらどうしましょうか。 |
| 小野幹事 | そうならないで、やる方法ってありますか。 |
| 事務局 | 町会の協力なくしては厳しい。万が一って話なんだけどね。 |
| 大黒幹事 | そう言われないように。 |
| 山下幹事 | 好ましくないんだけどもこの3年目の時に、住民協議会みたいなものをつくるっていうのを書きこんでおいて、そのうえでどうしても何人か必要だと紹介してくれるか勝手に何かやるようなかたちにして、その人たちが来るかどうかは別にしてなんですけども。要するに、親を持つてる人の中から懇談会をやりますよね、毎年やってる懇談会。あれを協議会のようなかたちにして、メンバーだけをだしてもらって… |
| 事務局 | とてもいい案だけれども現実問題は どうでしょうね。かなり不安がある。 |
| 山下幹事 | 逆にいうと、こういうような問題を他のところでも考えていくってことにあたってはそれくらいの事をして行かないと。 |
| 事務局 | うん分かる。私たちの中の話はわかる。むこうに持って行った話。 |
| 山下幹事 | なので市役所がやれって言うのではなく協議会の方でどうしてもそうしてくれという言い方をすればよいのでは。 |
| 小野幹事 | 中途半端なんだよね。不便な所だと多少高くてもバスは必要なんだけど、地理的に中途半端なんだよ、なくてもどうにかなる。 |
| 事務局 | 循環バスも何もないんであれば、もう少しどっちも力も入るんでしょけどもね。 |
| 大黒幹事 | ようはこのルートがおじゃんになれば協議会もおじゃんだ、と私は思う。これどうにか存続しようと思えば相当知恵を絞ってもう少し先を見てそれかかれでも遅くはないんだと思う気もするんですけども。 |
| 山下委員 | 変な話ですけども、公共交通協議会も降って湧いてきてるんですけども僕なんかは交通の専門家でないから、これやるからって事で平川市に呼ばれて、みんなそうですよね。交通の専門家でも、この人だけですけども。だけでも、市の方でこうやって何年かやってきて公共交通の存続の問題ってかなり深刻だと思うので。ここの協議会でやってきた事といえばこれしかないんで。やっぱそういう意味でも。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | これはあれでしょう。国費の決定はだいぶ遅いでしょう。申請して交付決定となるまで。 |

| | |
|----------------|--|
| 事務局 | これは国の方からは交付決定受けているので認定されています。あとはそのルートが認められればお金は入ってきます。3月までの分について。いずれにしてももう1回町会と話をしてみます。31日までまだ時間があるので。 |
| 議長 (佐藤副幹事長) | 2時間以上に慎重な審議、本当にありがとうございました。えー、なおそれでは今日の最後ですね新屋・尾崎線については、31日の協議会でですね、継続にするか市役所の方で打診をして、その後にお任せすると事によろしいでしょうか。事務局の方であれなんであれば、我々幹事の方も強引にまた事務局にして欲しいってできませんから。ただ新屋の町会長さんの話では、協議会にお任せするという事でしたので今回の幹事のみなさんの切実な意見をですね、素直に新屋と尾崎の町会長さんにお話をですね、そして31日の日に、その結果を私達が見守るという事で今日の会議は終了したいと思います。それでは31日よろしくご指導お願いいたします。今日は本当にありがとうございました。 |

以上会議顛末を報告するものである。

(報告者氏名) 事務局員 小林 豊